

世界レベルから遅れた日本の住宅性能

福島 諸外国の住宅を視察していると、日本の住宅性能は「貧しい」とつくづく感じてしまいます。でも実際に住んでいる人たちは、そういう感覚は持っていない。グドー氏はフランスから来日されて、日本の住宅にどのような印象を持ちましたか？

グドー 率直に、日本は断熱に関して随分と遅れていると思います。ヨーロッパはもちろん、中東や東南アジア、中国や韓国よりもね。来日するまでは、きつとアジアの中でも高レベルなのだろうと思っていたので、とても驚きました。各国が国を挙げて厳しい性

福島

能基準に取り組んでいるのに対して日本の基準は非常にゆるいですね。そうなんです。現行の最も高い基準である「次世代省エネルギー基準」で建てたとしても、冬には風邪を引きそうなくらい寒い家になってしまふ。なぜなら、暖かい地域では断熱材が薄くてもいいように、この基準が作られているからなんです。とても不思議ですね。車や電化製品など、日本が持っている技術は世界のトップレベル。なのに、住宅性能に関しては、いわば発展途上国という印象ですね。

グドー

福島 発展途上国ですか。でもその通りですね。もともと日本は、リビングなどの主要な部屋しか暖めない「部分暖房」の文化。これが、世界レベ

グドー

ルから遅れてしまった原因の一つだと思います。部分暖房が習慣だと、「全室暖房はもったいない」と思っってしまうんです。だから、ランニングコストを減らすには、暖房する部屋を小さくするか、我慢するかという考えになってしまふ。

福島

グドー ヨーロッパは「全室暖房」です。トイレやバスルームに暖房がないのは考えられません。北国だけでなく、スペインもそうですよね。全室暖房の場合は建物自体の性能を上げることで、ランニングコストを削減できる。ヨーロッパの住宅性能の向上には、このような背景があるのではないのでしょうか。

グドー

ええ。それと、今ヨーロッパでは暖房や給湯、照明など、家全体で消費

いまやガラスをデザインする時代に

福島

ヨーロッパでは、性能基準が日本よりも遥かに高く、しかも義務化をしている国がたくさんあります。このような厳しい基準が設けられたのも、技術の進歩があったからでしょうね。特にガラスの性能向上は著しかったと思います。実を言うと、

するエネルギー量が規定されるようになりまして。そのため、いかにランニングコストを下げるかがより重要視され、自ずとハイスベックな建材が選ばれる傾向にあります。10年後には暖房用エネルギーをゼロにすることを目標として掲げていますしね。

グドー

「Low-Eガラス」が登場したのが25〜30年くらい前だと思うのですが、ガラスにはこれ以上の進化はないだろうと思つていました。それがどんどん性能が上がつて。先ほどお話ししたとおり、ヨーロッパではハイスベックな建材が求められてきましたから、Low-Eガラスにも

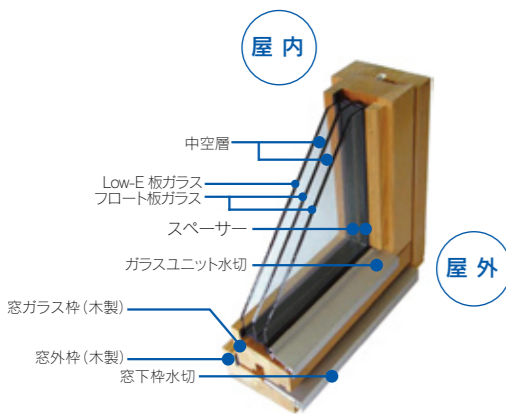
たくさんさんのバリエーションが出ていますね。簡単に説明すると「断熱性能を高めたガラス」です。ガラス面に特殊なコーティングが施されていて、太陽光は透過するのですが、赤外線（室内の熱）を反射してくれるので、窓から熱が逃げにくくなるんです。このガラスを2層ないしは3層にしたり、ガラスの間に封入する空気の種類を変えることで、性能の段階も変わります。また、当社では「ソーラーコント

ロール」と呼んでいますが、日本で言う「遮熱」効果もLow-Eガラスに持たせたものもあります。これは太陽光を反射してくれるので、室内に入る熱を制限でき、夏の室温上昇を

福島 明

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部 企画調整部長

寒冷地における快適な住まいの研究や技術開発、普及に携わり、北海道の住宅はいまやヨーロッパ並みの性能を持つまでに向上。エンドユーザー向けのセミナーも行うなど活動は多岐にわたる。



「トリプルガラス（3層ガラス）窓の構造」



Paul Goudeau (ポール・グドー)

サンゴバン・ハングラス・ジャパン株式会社 代表取締役社長

同社は、フランスに本社をおく「サンゴバングループ」の板ガラス部門の日本拠点。同部門はガラス市場世界2位を占め、卓越した技術により、高い性能はもちろん、デザイン性にも優れたガラスを提供している。